

～平成 29 年度キャリアアップ研修会を開催！～

平成 29 年 8 月 22 日（火）、南丹教育委員会連絡協議会の主催による平成 29 年度キャリアアップ研修会が、学校法人島津学園京都医療科学大学（南丹市園部町）の全面的な御協力をいただき、竣工間もない新キャンパスにおいて開催されました。

当日は、亀岡市、南丹市及び京丹波町の公立小中義務教育学校の副校長・教頭ら約 60 名が参加しました。

○ 講義 「学校経営と危機管理」 亀岡市教育委員会 田中 太郎 教育長



学校現場で実際に発生した学校危機（クライシス）の事例が紹介され、危機管理のあり方や発生時の具体的な対応等、田中教育長御自身の経験もふまえながらの実例から学ぶ講義でした。危機が発生した時の心構えとして隠蔽ではなく積極的な公表への道筋を建てることが重要であり、マスコミ対応のポイント、府教委の支援・CCST（京都府学校危機支援チーム）の活用など、現実に応じた教示をいただきました。最後に学校経営とリスクマネジメントとして「リスクを冒すからこそ、チャンスが訪れる。行くのはリスクかもしれないが、行かないのもまたリスクである。リスクがあるからやめようではなく、リスクをしっかりと計算し管理しながらチャレンジすることが重要」として講義を締めくくられました。

○ 講演 「よりよく生きる力を身につけるための放射線教育」 京都医療科学大学 大野 和子 教授

放射線に関する正しい知識や体への影響、放射線の発見から現代に至る歴史、医療における放射線の重要性に加え、東日本大震災を契機とした風評被害の発生原因や背景などについて講演いただきました。

放射線は医学の分野で極めて重要であり、先人達の身を挺した取組により現在は多くの命が救われていること。放射線は植物、岩石、食べ物の中など日常生活の中にも存在していること。放射線の正しい知識を身につけていないことが、偏見や差別につながり風評被害を招く実態を、具体的事例を示しながら、非常にわかりやすく説明いただきました。参加者から「理解が深まった」「まずは教員が正しく理解しなければならない。」との声が数多く寄せられました。

また、MRI や CT などの最新鋭の機器やマルチメディア教室など ICT を駆使した施設の見学を通じ、命を預かる診療放射線技師養成のための最先端の教育を学ばせていただきました。



日本核医学会専門医、放射線科専門医（診断）の立場から医師として診療、教育、研究に従事する一方、文部科学省放射線副読本作成委員、内閣府原子力安全委員会専門委員等を歴任



京都医療科学大学
遠藤 啓吾 学長



御挨拶をいただきました

